



尖ったDXで、世界を丸く。



TOPCON WAY



経営理念

Corporate Identity

トプコンは「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、
豊かな社会づくりに貢献します。

経営方針

Management Policy

トプコンは先端技術にこだわり、
モノづくりを通じ、新たな価値を提供し続けます。
トプコンは多様性を尊重し、
グローバルカンパニーとして行動します。
トプコンはコンプライアンスを最優先し、
全てのステークホルダーから信頼される存在であり続けます。

*Topcon for Human Life*世界中で
こんなことが
起きている。

もし、もっと早く眼の病気が見つければ、
あの老人は失明しなかったかもしれない。

もし、もっと安定して食糧が生産できたなら、
あの人たちは飢えに苦しまなかったかもしれない。

もし、もっと安全な橋があれば、
あの家族は病院や学校に通えたかもしれない。

世界で視覚障害を持つ人は22億人。
世界で飢えに苦しむ人は8億人。
橋がないため医療や教育を受けられない人は10億人。

世界で起きていることに目を向けて、
困っている誰かを想像してみよう。

世界を丸く。

トプコンは
こんな未来を
めざしている。

誰もが健康な眼で
快適な生活を送れる世界。

誰もが豊かで安定した食糧生産の恩恵を
受けられる世界。

誰もがインフラの整った環境で
安全に暮らせる世界。

世界で起きていることに目を向けて、
みんなが幸せな姿を想像してみよう。

それを私たちの発想力や技術力で
実現することができたら。
トプコンはそんなことを考えている。



トプコンは最先端のDXソリューションによって、
農業や建設分野におけるワークフロー全体の効率化、
眼科医療における新しい健診の仕組みづくりを通して、

世界中の人々の豊かな生活に貢献します。

DX(デジタルトランスフォーメーション)とは
企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や
社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務その
ものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

出典：経済産業省 デジタルガバナンス・コード2.0
https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/dgc/dgc2.pdf

尖ったDXで、

世界を変える トプコンのDX

だからトプコンは最先端のDXソリューションで、

医（ヘルスケア）・食（農業）・住（建設）の社会的課題を解決し、

世界の人々の豊かな生活を実現するために挑戦し続けます。

医 Healthcare



社会的課題

世界的な高齢化に伴う
眼疾患の増加

世界的な眼科医不足

DXソリューション

眼健診（スクリーニング）の
仕組みづくり

詳しくは 7P

食 Agriculture



社会的課題

世界的な人口増加に伴う
食糧不足への懸念

温暖化や異常気象に伴う
農作物の生産減少や被害

DXソリューション

「農業の工場化」

詳しくは 11P

住 Infrastructure



社会的課題

世界的なインフラ需要に
対応する技能者不足

気候変動に伴う
災害の激甚化や頻発化

DXソリューション

「建設工事の工場化」

詳しくは 15P

Topcon for Human Life

尖ったDXソリューションで、
お客様に必要とされる会社になります。

トプコンは『「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、
豊かな社会づくりに貢献します。』を経営理念に掲げています。

代表取締役社長 CEO

江 藤 隆 志



当社は、創業以来精密光学技術と
オプトメカトロニクス技術を強みに、
測量機や眼科用医療機器関連ビジ
ネスを中心にグローバルに事業を展開
してきました。1994年には、「建設工事
の工場化」という新しいコンセプトを
生み出し、新規市場を創出することで
潜在的な需要を掘り起こしました。
これを転機に、様々な海外技術ベン
チャー企業や販売会社のM&Aを推進
し、独自技術と発想力を融合させ、
「医(ヘルスケア)・食(農業)・住(建設)」
のソリューション提案型企業への転換
を進めてきました。

当社のお客様は専門的な知識を有する
プロフェッショナルです。現場を知り、
お客様のご意見を聴き、「Think
Global, Act Local」のマインドで、
お客様が気付いていない新しい
ユニークなDXソリューションを提案
することにより、グローバルに豊かな
社会づくりに貢献する。

これがトプコンの目指す「TOPCON
WAY」です。

これからも、顧客志向・現場主義と
チャレンジ精神で、ステークホルダーの
皆様に「必要とされる企業」を目指し、
事業を通じESG(環境・社会・企業
統治)経営を邁進してまいります。

トプコン「医」の目指す方向

より多くの人が健康で快適な生活を送るための取り組み

世界では、3.5人に1人、約22億人に視覚障害があるといわれています。さらに高齢化や生活習慣の変化に伴う眼疾患は増加傾向にあり、世界的な課題となっています。眼は人間の重要な器官で、日常生活で得られる情報の8割は眼から取り入れています。トプコンは、眼の健康維持のため眼疾患の早期発見・早期治療の仕組みづくりに取り組んでいます。



社会的課題

Societal Challenge

世界的な眼疾患の増加と
眼科医不足



対 策

Countermeasure

眼健診(スクリーニング)の
仕組みづくり



未 来

Future

眼を通じた
全身の健康維持



KEY POINT

数字でわかる
「医」の世界の現状



世界的な高齢化や生活習慣の変化による眼疾患の増加

視覚障害がある人は世界で約22億人。視覚障害の原因には、失明に至る恐れのある緑内障や加齢黄斑変性、糖尿病網膜症という代表的な眼疾患に加え、老眼や強度の近視も含まれています※1。これらの眼疾患は、自覚症状が出るまで進行すると完治は難しいといわれています。昨今、高齢化が進むなかで体の健康寿命は延びていますが、“眼の健康寿命”はそれに比例しておらず、加齢とともに眼疾患のリスクは高まっています。さらに、スマートフォンの普及などデジタル化が進む現代では、若年層でも近視の患者が増えていくことが予想されます。それに対して、眼科医は世界で24万人程度といわれており、とりわけ新興国では眼科医不足によって診察・治療を受けられないまま失明に至る人もいるという深刻な状況です。

眼科以外でスクリーニングを可能とすることで眼疾患を早期発見・早期治療

眼疾患は治療によって進行を遅らせることはできますが、完治することは難しいため、症状が進行する前の早期発見が大切です。眼科医は世界的に不足していますが、眼科医24万人に対して、内科医(かかりつけ医)は約200万人、眼鏡店やドラッグストアは約100万店舗あるといわれています。このような身近な場所*で眼の健康診断を受けられれば、眼疾患の早期発見・早期治療が可能になります。トプコンは眼科専門医以外でも簡単に操作できるフルオート検査機器や遠隔で診察ができるシステムを組み合わせることで、眼の健康診断である眼健診(スクリーニング)の仕組みを普及させていくことが必要であると考えています。

*日本においては医師不在の眼鏡店及びドラッグストア等は対象外

眼健診(スクリーニング)の普及で健康で快適な生活を

トプコンは眼科専門医以外でも簡単に操作できる検査機器の開発や、眼鏡店・ドラッグストアや健診センターなどとの連携によって眼健診(スクリーニング)の推進に貢献しています。スクリーニングの仕組みが世界中で普及すれば、より多くの人の失明リスクを減らすことができます。さらに最近では、認知症や動脈硬化など眼疾患以外の病気の症状を、眼底画像から検出するような研究も発表されています※2 ※3。トプコンは「眼は身体の窓『Healthcare Through the Eye』」を使命として、眼と全身の健康維持につながるよう、眼健診を推進し、より多くの人が健康で快適な生活を送れる未来を目指しています。

※1 WHO(世界保健機関)ビジョンに関する世界レポート(2019年)

※2 Peter J Snyder, Jessica Alber et al. Retinal imaging in Alzheimer's and neurodegenerative diseases. 2021 Jan;17(1):103-111.

※3 Wong TY, Klein R, Couper DJ, Cooper LS, Shahar E, Hubbard LD, Wofford MR, Sharrett AR. Retinal microvascular abnormalities and incident stroke: the Atherosclerosis Risk in Communities Study. Lancet. 2001; 358:1134-1140.

眼健診(スクリーニング)の仕組みづくりにより眼疾患の早期発見・早期治療に貢献

詳しい情報は
こちら



トプコンが提供する
課題解決の
DXソリューション

眼鏡店やかかりつけ医など、眼科以外の身近な場所で眼底撮影を行い、クラウド型IoTプラットフォームを活用することで、専門医による遠隔診断やAI診断を可能とし、眼疾患の早期発見・早期治療、医療効率の向上に貢献します。

眼健診(スクリーニング)の仕組みづくり



※1 当社ハードウェアデバイスで撮影した画像をデジタル管理し、医師が別の場所で診断を行うこと
※2 当社ハードウェアデバイスで“TRC-NW400”と他社製ソフトウェア(例: Digital Diagnostics Inc. 社のソフトウェア“IDx-DR”等)の組み合わせにより、ソフトウェア側が実現。日本は対象地域外
※3 日本においては医師不在の眼鏡店およびドラッグストア等は対象外

トプコンが提供する
課題解決の
技術

健康で快適な生活を実現する独自技術

トプコン独自のフルオートスクリーニング機器やデジタル検眼システムにより、診断に必要な画像や検査データを簡単に取得できます。また、データマネジメントシステムで検眼データや眼底イメージの統合管理ができるため、医療機関同士のデータ共有や診断連携が実現できます。



フルオートスクリーニング機器



リモート検眼システム



データマネジメントシステム

Report

課題解決の実例レポート

in オーストラリア



フルオート検査機器で検査を行うアボリジニの医療スタッフ



移動健診車
ビジョンバン

広大な西オーストラリア
の土地を縦断する
ビジョンバンのルート

先住民アボリジニの失明予防に貢献。遠隔眼科医療をサポート

オーストラリアの先住民アボリジニの失明率は非先住民の約3倍、うち90%が未然に防ぐことができたといわれています※。当社は、西オーストラリアで先住民の眼疾患の早期発見・早期治療を促進し失明を予防する遠隔診断サービスを提供するNGOに賛同し、フルオート検査機器と遠隔医療プラットフォームを提供しました。当社機器をNGOの移動健診車に設置し、先住民のコミュニティでの健診を行い、検査データを本部の専門医がクラウドで閲覧し診断することで、リアルタイムでの遠隔眼科医療をサポートしました。当社システムの活用により遠隔医療体制の強化を図ることで、糖尿病網膜症などの深刻な眼疾患の早期発見・早期治療に貢献しています。

※The Fred Hollows Foundation <https://www.hollows.org/au/what-we-do/indigenous-australia/aboriginal-and-torres-strait-islander-eye-health>

トプコン「食」の目指す方向

誰もが豊かで安定した食生活を送るための取り組み

世界では、貧困や自然災害などに伴い、10人に1人が十分な食糧を得られず飢えに苦しんでいるといわれています。今後、人口増加により1人当たりの農作物の作付け面積は減少。さらに異常気象の頻発化により、世界的に穀物の収穫量も不安定になっています。トプコンは、安定した食糧生産のため農業の生産性と品質の向上に取り組んでいます。



社会的課題

Societal Challenge

食糧不足への懸念と
不安定な農作物収穫量



対策

Countermeasure

農業の工場化



未来

Future

地球環境にやさしい
農業の実現



KEY POINT

数字でわかる
「食」の世界の現状



世界の人口増加や気候変動による不安定な食糧需給

世界で飢えに苦しむ人は8億人。アフリカで2億7800万人(アフリカ全人口の5人に1人)、アジアにおいても4億2500万人が飢餓状態にあるといわれています※1。現在の世界人口は約80億人ですが、2050年には97億人に達すると見込まれています。これに対して農作物の作付面積は限られており、さらには昨今の気候変動の影響で収穫量も不安定なことから、すべての人を満たす食糧生産はより一層難しくなっていく可能性があります。加えて近年では、不安定な世界情勢によって燃料価格や肥料価格が高騰しており、生産コストの上昇も懸念されています。国連が目標としている飢餓の撲滅を2030年までに達成するには、これからの10年間で世界の農業生産性を28%向上させることが必要とされています※2。

農機の自動運転やデータの一元管理で生産性と品質を向上

すべての人に行き渡る十分な食糧を生産するには、限られた農地で生産性を最大化することが重要です。しかし、農機の正確な操作や、農作物に与える適切な水・肥料の散布場所や分量は農家の熟練の経験や勘、技能に依存しているのが実状です。トプコンは農作業のデジタル化・自動化を進め、取得したデータを経年分析し見える化することで、肥料などの散布量を最適化し、作業の効率化や収量の最大化、品質向上につながるソリューションを提供します。具体的には農機の自動操舵システムや、穀物の生育状態を簡単に解析できる生育センサー、また、農作業の様々なデータを一元管理するシステムを組み合わせることで、農作業を工場のように効率よく管理する「農業の工場化」が必要であると考えています。

持続可能な農業で誰もが豊かな恵みを受けられる食生活を

「農業の工場化」により生産性や品質の向上を図ることで、トプコンは食糧不足への懸念を解消することに貢献していきます。また、農機の自動操舵システムの導入により稼働時間を2割低減することができるため、CO₂削減につながります。加えて、生育データを活用して肥料、農薬や水の使用を適切に管理することで、土壌汚染の防止や水の節約にもつながります。飢餓の撲滅にとどまらず、地球環境にも貢献できる「農業の工場化」で、持続可能な農業を推進し、誰もが豊かな恵みを受けられる未来を目指しています。

※1 国連「世界の食料安全保障と栄養の現状(SOFI)2022年版」 ※2 OECD(経済協力開発機構)・FAO(国連食糧農業機関)発表「農業見通し2022-2031」

社会的課題に対する「食」のDXソリューション

「農業の工場化」により生産性と品質の向上に貢献

トプコンが提供する
課題解決の
DXソリューション
DX Solution

営農サイクル(計画・種まき・育成・収穫)のあらゆるデータを一元管理。それらのデータをもとに農機の自動操舵システムや生育センサーなどと組み合わせて農作業を行うことで、生産性と品質の向上に貢献します。

農業の工場化



計画

種まき

育成

収穫

農機の自動運転やデータの一元管理

詳しい情報は
こちら



トプコンが提供する
課題解決の
技術
Technology

豊かな恵みを受ける食生活を実現する独自技術

精密GNSS(全球測位衛星システム)を活用し、ハンドル操作を不要とした農機の自動操舵システム、作物の生育状態を非接触で計測するレーザー式生育センサー、農業マネジメントシステムにより営農サイクルのデータをクラウドで一元管理し、肥料や農薬など農作業の最適化を実現します。



農機の自動操舵システム



レーザー式生育センサー



農業マネジメントシステム

Report

課題解決の 事例レポート

in アイルランド



レーザー式生育センサーと自動操舵システムを搭載した肥料散布機



レーザー式
生育センサー

作物の生育状態を
色分けしたマップ
で可視化

環境と調和した地球にやさしい農業に貢献。生育状態を「可視化」し、ジャガイモの生産量をアップ

アイルランドの大規模ジャガイモ農場では、環境に配慮した持続可能な農業を目指し、生産性を維持しながらも農薬などの化学物質を減らすことができる農業を模索していました。そこで肥料や農薬の量に起因する土壌の変化とジャガイモの生育度合いの相関関係を当社のレーザー式生育センサーを活用し継続的に調査、分析することで、過剰な化学物質の削減に成功しました。さらに、これまで育てにくいとされていた場所でも肥料の最適化を実現することで収穫量が増加しました。また、当社の自動操舵システムを使用することで、CO₂の削減にも貢献しました。当社のシステムを活用することにより、生産性の向上と環境負荷の低減を実現した「地球にやさしい農業」に貢献します。

トプコン「住」の目指す方向

誰もが安心して生活できる 社会基盤をつくるための取り組み

世界では、高まるインフラの需要に対し、十分な投資が確保できず、建設に関わる技能者も不足しています。さらに、気候変動に伴う災害の激甚化や頻発化により社会インフラのメンテナンスや強靱化が求められています。トプコンは豊かに暮らせる街づくりのため、建設工事の効率化と品質の向上に取り組んでいます。



社会的課題

Societal Challenge

高まるインフラ需要と
自然災害の激甚化



対 策

Countermeasure

建設工事の
工場化



未 来

Future

豊かな生活と
経済成長の足掛かり



KEY POINT

数字でわかる
「住」の世界の現状



都市開発や災害対策のための世界的なインフラ需要

世界には、安全な橋がないために病院や学校へ行くことができず、医療や教育、雇用などの機会を逃している人が約10億人いるといわれています(次ページで事例紹介)^{※1}。新興国では急速な人口増加と経済発展に伴って、都市の発展を支える社会インフラの整備が求められています。一方で先進国においても、都市の再開発や、老朽化した道や橋のメンテナンスのために工事の需要が高まっています。さらに昨今の気候変動の影響で、災害対策を目的としたインフラの強靱化が世界中で求められています。誰もが安心して暮らせる社会基盤をつくるため、インフラ投資は世界全体で、2017年から2035年までに総額69兆ドルが必要だといわれています^{※2}。しかし、高騰するインフラ需要に見合う十分な建設投資が確保できず、また工事を担う技能者も不足しています。

建設工事のワークフローの一元管理で生産性の向上と人手不足を解消

建設投資や技能者が不足するなかで、世界的に高まるインフラ需要に対応するには、建設工事の生産性をさらに向上させる必要があります。建設工事は熟練技能者への依存度が高く、デジタル化・自動化がなかなか進んでいません。トプコンは、建設工事のワークフローである測量・設計・施工・検査をデジタル化・自動化することで作業を最適化し、生産性向上と人手不足の解消を図ります。具体的には、3次元計測機器を活用して現場全体を3次元デジタルデータ化し、建機をロボット化するICT自動化施工システムとクラウド上でデータを一元管理するシステムを組み合わせることで、生産性と品質を向上させる「建設工事の工場化」が必要であると考えています。

誰もが安心して豊かに生活できる社会基盤を

「建設工事の工場化」により、生活の基盤となるインフラが整備されることで、災害にも強く安心して生活できる街づくりに貢献します。安定した社会インフラが整うことで、医療や教育、雇用の機会が増え、産業が活性化し、国や地域の経済成長へつながります。また、ICT自動化施工システムは、建機の稼働時間を約3割低減することができ、CO₂の削減にも貢献します。トプコンは、環境にも配慮した「建設工事の工場化」で持続可能な街づくりに貢献し、誰もが安心して豊かに生活できる未来を目指しています。

※1 Bridges to Prosperity 推計

※2 マッキンゼー・グローバル・インスティテュート推計 "Bridging infrastructure gaps"

社会的課題に対する「住」のDXソリューション

「建設工事の工場化」により生産性向上と人手不足解消に貢献

トプコンが提供する
課題解決の
DXソリューション
DX Solution

ICT自動化施工システム、3次元計測機器のデータをオフィスと繋ぎ作業の進捗や建機の稼働状況、資材管理などをリアルタイムで把握。測量・設計・施工・検査の建設工事のワークフローを一元管理し、生産性の向上と人手不足解消に貢献します。

—— 建設工事の工場化 ——



測量

設計

施工

検査

建設工事のワークフローの一元管理

詳しい情報は
こちら



トプコンが提供する
課題解決の
技術
Technology

安心して生活できる社会基盤を
実現する独自技術

高精度な3次元計測機器、精密な油圧コントロール技術を組み合わせて、3次元設計データに基づき建機を自動制御するICT自動化施工システムを実現。また、リアルタイム施工マネジメントシステムにより、建設現場とオフィスをネットワークで繋ぎ、デジタルデータで一元管理することで、建設工事の効率化を実現します。



3次元計測機器



ICT自動化施工システム



リアルタイム施工マネジメントシステム

Report

課題解決の 実例レポート

in ルワンダ



完成した人道橋



3次元計測機器による測量

架橋による医療や教育、雇用とのつながりに貢献 孤立が懸念されるコミュニティの橋渡し

橋がないために医療、教育、雇用などの機会を十分に得られない地域の人々の生活向上のため、当社は「架橋によって地域をつなぎ、孤立に起因する貧困をなくす」ことを目指す米国NPO法人が東アフリカのルワンダなどで進めているプロジェクトに、測量機器とソフトウェアの提供を行いました。現場の測量データを遠隔地のエンジニアチームと情報共有することで、建設プロセスの効率化を図り、生産性や品質の向上を実現し、新興国の橋の建設を支援しています。当社は、今後もこのプロジェクトを継続的に支援し、地域コミュニティの橋渡しに貢献していきます。

技術融合による 新たな価値の創造

トプコンは、創業以来培ってきた光学・センシングのコア技術に加え、時代やニーズに即した周辺・応用技術を積極的に取り入れ、独自のコア技術を常に進化させてきました。さらに35社超に及ぶ海外技術ベンチャー企業のM&A・アライアンスによって最先端技術を手中に収め、当社のコア技術と融合させることで、誰もが考えもしなかったユニークな製品やソリューションを生みだしてきました。それにより顧客の潜在的な需要を掘り起こし、ブルーオーシャンの市場を開拓してきました。また、研究開発、製品開発のみならず、知的財産、生産・製造技術、技術管理体制の強化も同時に進め、未来のグローバルニーズに応えるソリューションを提供する基盤を確立しています。「医・食・住」の社会的課題を解決するため、今後も尖ったDXソリューションの開発に挑戦し続けます。



「医」分野での技術貢献

眼健診（スクリーニング）の仕組みづくり

より多くの人に、健康で快適な日常生活を

レンズ・光学設計技術と干渉計測を活用することで、眼底の3次元構造を高精細に描出。さらにこれまで培ってきた眼光学の深い知識とリアルタイム画像処理技術を組み合わせ、複雑な眼底撮影をフルオート化。簡便で、均質な眼底3次元計測を実現しました。



「食」分野での技術貢献

農業の工場化

誰もが、豊かな恵みを受けられる食生活を

GNSS（全球測位衛星システム）アンテナ技術を活用した農機の自動操舵システムとレーザー分光技術を応用した農作物の生育状態を非接触で計測するセンサーを開発。両者を組み合わせ、営農サイクルのデータ管理を可能にし、収量の最大化と作物の品質向上を実現しました。

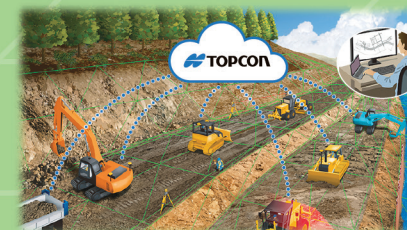


「住」分野での技術貢献

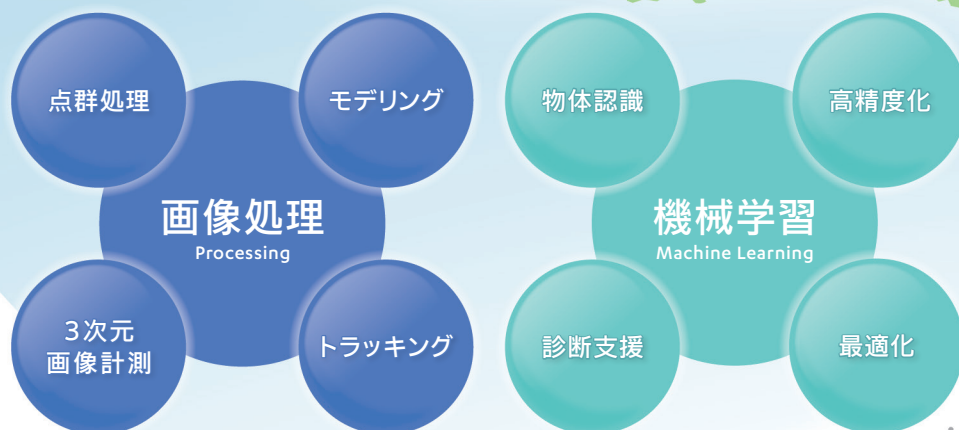
建設工事の工場化

世界中に、安心して生活できる社会基盤を

3次元位置計測技術とIMU（慣性計測装置）・油圧制御技術を組み合わせ、建設機械のロボット化により高速・高精度なICT自動化施工を確立。IoTによる遠隔モニタリングにより建設現場の省力化・生産効率の向上並びに遠隔オフィスでの日々の進捗管理を実現しました。



応用技術



先端技術

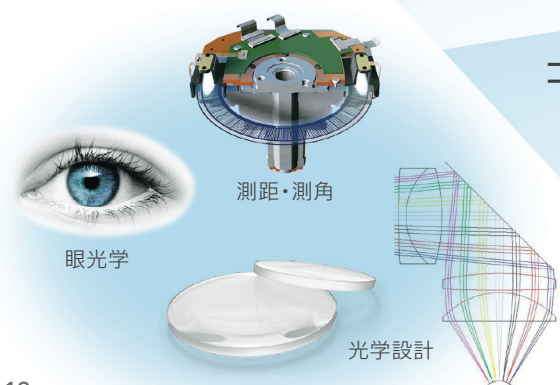
M & A・技術導入
Technology Fusion



コア技術

センシング技術

光学技術



干渉計測 (Interferometry)

測距・測角 (Distance/Angle Measurement)

GNSSアンテナ (GNSS Antenna)

光波センサ (Optical Wave Sensor)

眼光学 (Optical Engineering)

レーザー技術 (Laser Technology)

薄膜 (Thin Film)

色彩光学 (Color Optics)

レンズ・光学設計 (Lens/Optical Design)



世界中の仲間とともに、「医・食・住」の社会的課題に挑戦

トプコングループは、先端技術を持つ世界中の企業をM&Aによって仲間に加え、既存の技術と融合させて新しい価値を創造することで事業を成長させてきました。現在は世界30の国と地域で生産・開発・販売拠点を展開しており、売上高比率の8割が海外市場、社員の7割がノンジャパニーズです。高いグローバル性を活かして、世界中の多様な仲間と連携することで、「医・食・住」の社会的課題の解決に挑戦します。

詳しい情報は
こちら

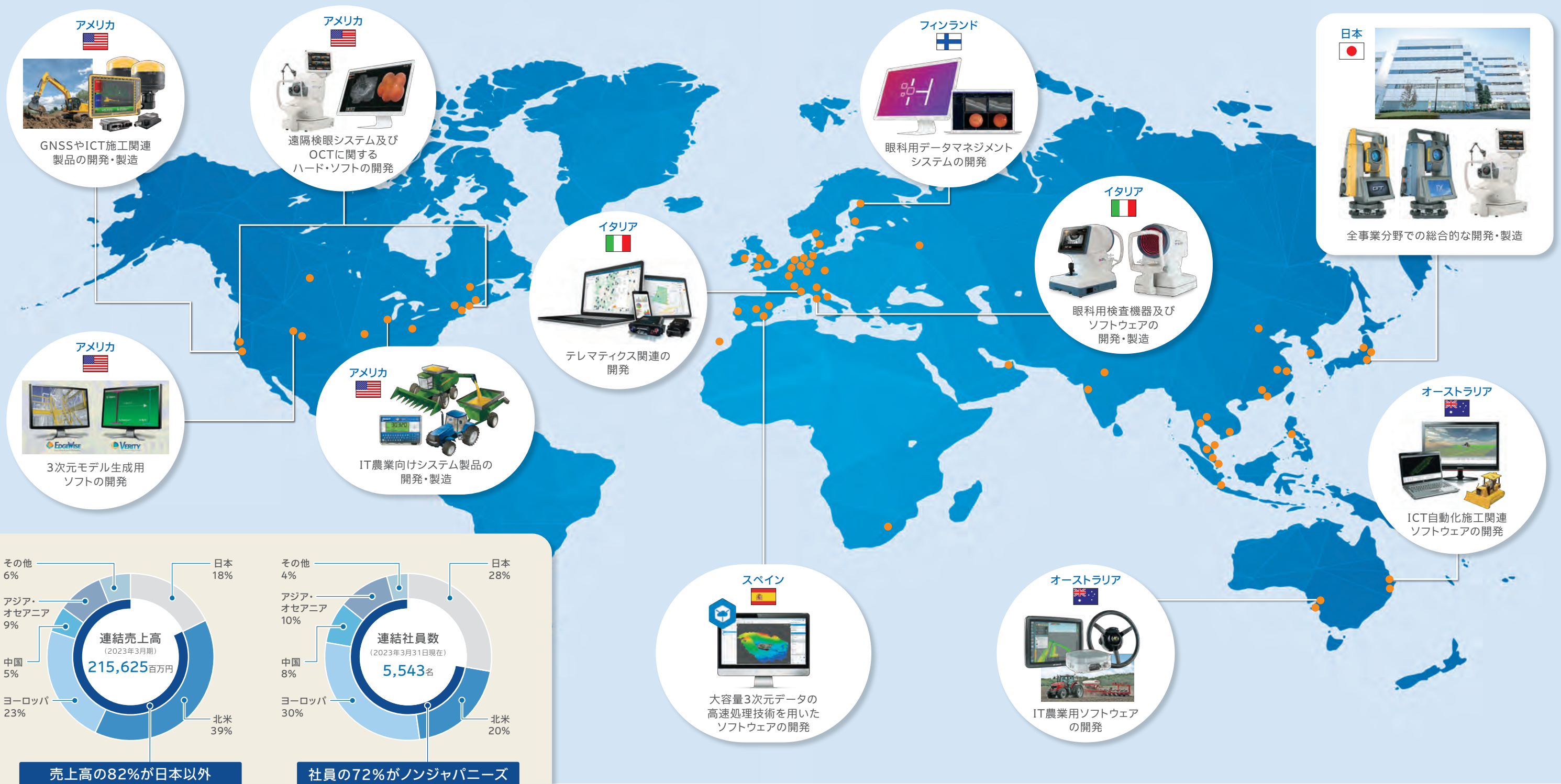


開発
30 拠点
強みを活かす
開発体制

販売
66 拠点
全世界をカバー

生産
16 拠点
モノづくりの精神を
世界で共有

※2023年3月末現在



トプコンのサステナビリティ

トプコングループは、グローバル市場に商品を提供する企業グループとして、“「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します”という経営理念のもと、SDGsの達成に貢献し、持続的に成長できる企業を目指しています。その実現に向けて「E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)」それぞれに、2030年をターゲットとした経営ビジョンを掲げ、ESG経営を実践することで、さらなる企業価値の向上を図っていきます。

マテリアリティ

ESG経営の実践のため、どの分野でどのように貢献していくのか、特に重点的な課題として6つのマテリアリティを特定、2023年度より取り組みを進めています。



ESG経営ビジョン

環境ビジョン2030



詳しい情報は
こちら



社会ビジョン2030



詳しい情報は
こちら



ガバナンスビジョン2030



詳しい情報は
こちら



環境に対する取り組み

トプコングループは、環境問題への取り組みを経営の重要課題の一つとして位置づけ、「製品を通じた環境負荷低減」「気候変動への対応」の2つの課題に取り組んでいます。「製品を通じた環境負荷低減」では、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供することで、社会全体の省エネ化、省資源化の推進を図ります。また、製品の開発や製造を含めた、企業活動から発生する廃棄物は基本的にリサイクルし、有効利用に努めています。「気候変動への対応」では、再生可能エネルギー電力の使用率向上に努め、日本国内の拠点から発生する温室効果ガス排出量を、2013年度比で2030年度末までに40%削減することを目指します。

建機や農機の自動化を通じたCO₂排出量削減

建機や農機の自動化システムによって現場作業を効率化することで、燃料使用量の抑制につながり、CO₂排出量を削減することができます。自動化システムが普及することで、さらなるCO₂排出量の削減が期待できます。



環境調和型製品の開発

当社が製造する製品の99%以上は環境調和型製品*です。2001年から環境調和型製品の開発を進めており、製造～販売時の環境負荷低減はもちろん、その過程で発生する廃棄物もリサイクルし、有効利用に努めています。

*環境調和型製品：製品の企画・材料調査・製造・流通・使用・廃棄・リサイクルといった製品ライフサイクルのすべての段階を通して環境に配慮した製品



会 社 名 株式会社トプコン
(TOPCON CORPORATION)

本 社 所 在 地 東京都板橋区蓮沼町75番1号

設 立 1932年(昭和7年)9月1日

資 本 金 16,780百万円

連結売上高 215,625百万円

連結社員数 5,543名

グループ会社 連結子会社 65社、関連会社 9社

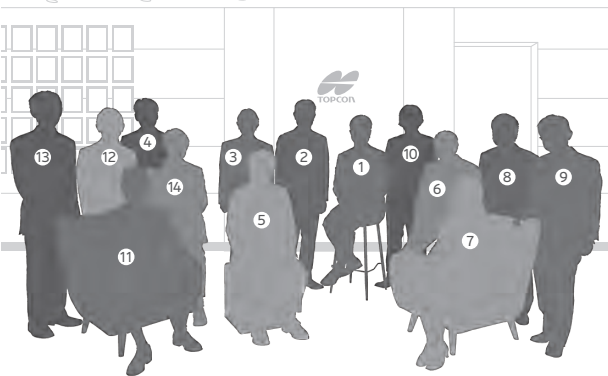
(2023年3月31日現在)

ウェブサイトのご案内

トプコンに関するさらに詳しい情報は
こちらのコーポレートサイトをご覧ください。
QRコードからもご覧いただけます。



<https://www.topcon.co.jp>



- ① 平野 聡 ② 江藤 隆志 ③ 秋山 治彦 ④ 山崎 貴之
- ⑤ 熊谷 薫 ⑥ 須藤 亮 ⑦ 山崎 直子 ⑧ 稲葉 善治
- ⑨ 日高 直輝 ⑩ 寺本 克弘 ⑪ 中村 昭久 ⑫ 笠 信之
- ⑬ 竹谷 敬治 ⑭ 鈴木 潔

Board Members



代表取締役会長
平野 聡

代表取締役社長 CEO
江藤 隆志

取締役
秋山 治彦
山崎 貴之
熊谷 薫

社外取締役
須藤 亮 日高 直輝
山崎 直子 寺本 克弘
稲葉 善治

監査役
中村 昭久
笠 信之

社外監査役
竹谷 敬治
鈴木 潔

詳しい情報は
こちら

